

仙台城跡被災石垣復旧工事現場見学会資料

平成 27 年 (2015) 2 月 22 日 仙台市教育委員会文化財課

1 被災状況と復旧の経過

平成 23 年 3 月の震災により、仙台城跡では本丸北西、^{ほんまるほくせい} 酉門、^{とりのもん} 中門、^{なかのもん} 清水門の各石垣、^{しみずもん} 大手門北側土塀及び石垣、本丸東側崖地などが被災し、市道仙台城跡線も通行止めとせざるを得ない状況となりました。

仙台城跡は国史跡であるため、文化庁及び関係諸機関と協議を進め、復旧事業を国庫補助事業として進めることとし、平成 23 年の 12 月から事業を開始しました。崩落・変形した石垣の復旧については平成 24 年 7 月から解体に着手し、平成 27 年 2 月中旬に工事を完了しました。

石垣の復旧工事と並行して行われていた市道の復旧・改修工事も完成し、2 月 25 日より通行が再開されます。



1 本丸北西石垣北部の被災状況



2 本丸北西石垣南部の被災状況

2 本丸北西石垣ほか石垣復旧工事の概要

目的：東日本大震災で被災した石垣等の復旧

期間：平成 24 年 7 月～平成 27 年 2 月

発注者：仙台市（担当：教育委員会生涯学習部文化財課）

受注者：株式会社大林組

（石積み担当：中村石材工業株式会社）

工事箇所：仙台城本丸北西・酉門・中門・清水門の各石垣

工事面積：約 1,200 m²

積み上げ石材数：約 6,600 石



3 中門北石垣の被災状況



4 コンクリートで修復されていた中門北石垣

3 工事の経過

①現況の測量

レーザーと写真により立面図、平面図を作成する

②発掘調査

解体範囲の遺構の有無を確認し、状況を記録する

③石垣の解体

1 石ずつ番号を付けて移動する

解体と並行し、石垣内部の状況を調査・記録する

④崩落石材の位置特定

被災前の写真と見比べ、元の位置を特定する

⑤石垣の積み上げ

崩落・変形前の状態に復元しながら積み上げる

⑥完成後の測量

完成後の石垣の記録を残し、将来に備える



中門北石垣は昭和 52 年にコンクリートを使用して修理されていましたが、今回は江戸時代の工法にならない、コンクリートを外してから積み直しました。

5 中門石垣の解体



6 崩落石材の清掃と測量 (①～②)

地震で崩落した箇所では、石の周囲の土砂を取り除き、1 石ごとに番号を付け、位置の計測をしてから移動しました。



7 解体作業状況 (②～③)

2 台のクレーンにより、石垣の石や裏込め材などを吊り上げました。



8 解体後の状況 (③)

崩落・変形部の石材と、石垣の背後に詰められた玉石を、記録を取りながら解体・撤去しました。



9 石の据え付け作業 (④～⑤)

クレーンで吊った石を、石工さんが傾きや周りの石の形に注意して、慎重に 1 石ずつ据えました。

本丸北西石垣北部の復旧経過

4 大手門北側土塀等復旧業務の概要

期間：平成 24 年 7 月～平成 25 年 7 月

発注者：仙台市（担当：教育委員会生涯学習部文化財課）

受注者：株式会社阿部建設

土塀延長：約 35m

工事内容：被災した土塀及び石垣の復旧

土塀表面はモルタルが塗られていましたが、今回は伝統工法に基づき、^{つちかべ} 土壁と^{しっくい} 漆喰を使用して修復しました。



10 土塀の被災状況



11 土塀の復旧状況

登城路を歩こう



「仙台城普請奉親絵図」元禄7年(1694) 仙台市博物館所蔵
 (石垣などの修理を幕府に申請した際の添付図面の^{ひかえ}控)